

ボクのまわりも緑がぐ〜んと濃く
なってきて、おいしい草がいっぱい

のぼりベツ

広報

'93
6.1
No.512



自宅のアトリエで、9月に東京で開かれる行動美術展への出品作(130号)を制作中の矢元さん。

プロの画家をめざす

矢元 政行さん

今年一月、富岸町在住の矢元政行さん(室蘭鶴ヶ崎中学校美術教諭)の描いた油彩画「隔離病棟の朝」が、新人画家の登竜門、第三十六回安井賞展に道内でただ一人、見事入選しました。現在、作品は全国を巡回中。登別の画家の作品が、全国の人々に感銘を与えています。

現代の縮図を描く

作品「隔離病棟の朝」は、全国から出品された二百四十一作家三百八十四点の中から、入選四十七点のひとつに選ばれました。この作品は、百二十号(九〇・〇×一九三・九)の大作。作品には、どんよりとした空と大きな工場を中心に、その壁や煙突、パイプに群がる人々、所在なげにたたずむ人々が無数に描かれ、退廃的な雰囲気の中に現代の抱える不安や不安定さが表現されています。

具象画を描き、空間表現を重視

矢元さんの画風は、写実画から具象画へと常に自分の表現方法を求めて変化してきました。今、求めているのは、絵の中に動きを表現すること。煙や飛び降りている人など動きのあるものを入れて描くことで表現しようとしています。絵の制作過程では、下地作りを重視します。「僕の絵は、最初に下地を作っておかないと、描いたときに空間が出てこないんです。絵の善しあしは下地のできて決まりますね」と話します。下地は、キャンバスに絵の具を流し、グラインダーや紙やすりで削り、二か月かけて作ります。

「僕が見ている現代の風景。架空の風景ですが、絵に出てくるといいますね」と矢元さん。



制作は毎日午前一時まで

影響を受けた画家は、中世ヨーロッパの画家ボッスやブリューゲル。彼らの絵が持つ風刺性など、現代にも通じるところに影響を受けました。

矢元さんは、伊達市稀府出身の三十九歳。絵を描くのが好きになったのは、小学校のときに先生がいつもコンクールに絵を出してくれていたから。本格的に描き始めたのは高校時代。美術系大学をめざしてデッサンの勉強をしました。

現在、まさ子夫(三人の子供)と三人の子供と暮らしている。自宅のアトリエで毎日午後九時から午前一時頃まで制作活動をしています。百三十号の作品が完成するのに、約二年間かかりました。

「制作に忙しくなると、協力してくれる家族と過ごす時間が少なくなるので、できれば絵を描くことを職業にしたいです。」

「画家として認めてもらうには、安井賞の入選ではだめなんです。芥川賞に例えると候補作品の中に入っただけのようなものですから。今はまだ、アマチュアですよ」と、その思いを話してくれました。

家族とのふれあいを大切に、教員のかたわら、プロの画家をめざし情熱を注ぐ矢元さん。きっと近い将来、安井賞をつかむことでしょう。

安井賞とは

文学の芥川賞に匹敵するといわれる絵画の安井賞は、洋画壇の巨匠、故安井曾太郎画伯を記念し、具象的傾向の新人作家を育成するため1957年に創設されました。

年に一回だけ開催される安井賞展への出品は、美術関係者が作品を評価し推薦しないとできません。矢元さんの作品は、富山県立近代美術館・第三回日本海美術展での優秀賞受賞がきっかけとなり推薦され、出品されました。

收藏美術館 矢元さんの作品は、岩内町の荒井記念美術館に常設展示のほか、ゴッホのひまわりで有名な東京の安田火災東郷青児美術館、富山県立近代美術館に收藏。一年後には札幌市芸術の森美術館にも收藏される予定。今回の入選作品は、道内では十一月五日から十六日まで帯広市の藤丸デパートで展示されます。

友達の輪

西川道子さん

新生町在住



私の手作り マイ・ライフ

前号で登場した深谷勝彦さんからのご紹介で、今号は新生町にお住まいの西川道子さんです。

手作りがとても好きで子供のころから何でも作るのが趣味だったという西川さん。そんな西川さんに手作りの魅力についていろいろと聞いてみました。

家庭に入って何か手仕事でやっていけるものがないかと思って始めたのが和裁なんですよね。でもそれは長くは続かなくて、やめちゃたんです。その後、和装小物の資格を取って着物とおそろいで持つ

バッグや草履を作り（たんです。子供の入学式で、見たことある着物だなと思つたら、私の作ったバッグを持っていらつしやる方がいたり、そんなことが何度かありましたね。でもだんだんと和装物がなくなってきましたよ。）。

そのうちに、既製の布地ばかり使うのじゃなくオリジナルのもので作れたらいいなと思つていました。室蘭の文化短大で機織りの聴講生を募集しているのを新聞で見て、「あつ、これだ」と思いました。二年間機織りと染め物を勉強したんですよ。ですから、今でも山に行くとき「草木染めになる木だな」とか気になってしまいます。その布地でバッグを作ったり少し凝りましたね。

自宅の二階にその仕事場があるということ、見せていただきました。糸を紡ぐ機械や機織り機があり、また、ご自分で織った布を使ってすてきなバッグや小物などがいっぱい。私も思わず欲しくなるものがありました。本当に自分の趣味を楽しんでいる様子が伺えました。

街へ出かけると、どうしても人の持つているバッグなんか気になって、目がバッグを追つてしまふんですよね。あまりジロジロ見るもんですから、いやな顔をされてまして（笑）。今はパッチワークに

凝っているんです。でも、どうしても和風になってしまうんですね。家の中ではこんなことをして過ごしています。そのほか、体を動かすことでは、テニスや水泳も楽しんでます。水泳はまだ長い距離は泳げないんですけど、結構長続きしていますね。テニスや水泳は家族でキャンプに出かけたときに、みんなで楽しめますのでいいですね。

楽しそうにお話する西川さんは、ご自分の趣味を本当に楽しんでおられ、「これからも趣味としてずっと続けていきたい。そして、それを通して人と人とのふれあいの輪を広めて行きたい」と語ってくれました。

今回は、若草町にお住まいで、陶芸を趣味にしている荻田由雄さんです。お楽しみに！

であいふれあい

市民リポーター

赤樫 聡美



～第1回市民意識調査 結果がまとまりました～

「登別市に一生住みたいと思う人は約6割」 「居住環境・生活環境の満足度にはバラツキ」

この調査は、市が総合計画の策定や市政運営に市民のみなさんの考えや要望をより一層反映させるため、昨年十二月に行つたものです。このたび、その調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

調査の対象者は二千六十一人で住民基本台帳の中から年齢別・地区別の人口割合により設定した二十歳以上の市民四万三千二百二十五人の中から無作為に抽出し、郵送により調査を行いました。

設問数は二十一問、有効回答率は五十一・三二割(千四十八人)でした。

以下、調査結果の概要は次のとおりです。

居住環境・生活環境

「居住環境・生活環境の満足度にはバラツキ」

生活関連施設とサービスについての質問で、現状で満足しているという回答が多かったのは「予防接種や検診などの保健活動」「消防車、救急車などの対応」「ゴミの収集」で、逆に不満であるとの回答が多かったのは「心身障害者のための施設やサービス」「娯楽施設」「道路舗装や排水の状況」でした。

地域への愛着度

「登別市に一生住みたいと思う人は約六割」

あなたは、登別にこれから一生住みたいと思いますか。

() 内人数	一生住みたいと思う		一生住みたいとは思わない		わからない	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
全体	62.1%	(651)	15.3%	(162)	22.4%	(235)
男性	63.5%	(315)	16.7%	(83)	19.8%	(98)
女性	61.0%	(336)	14.3%	(79)	24.7%	(136)
20代	20.2%	(21)	83.7%	(35)	46.1%	(48)
60代			80.6%	(154)	8.4%	(16)
					11.0%	(21)

「あなたは、登別に一生住みたいと思いますか」という質問に対し、登別市に一生住みたいと思うと答えた人は全体の六十二・一割で、一生住みたいと思わないと答えた人(十五・三割)を大きく上回っています。

ただし、年齢により差が大きく一生住みたいと思う人は二十代では約二割に対し、六十代以上では八割を超えるという結果が出ています。

余暇

「これからの余暇の過ごし方は旅行が第一位」

「どのようなことをして余暇を過ごしますか」という質問では、「テレビを見る」「買い物」等の答えが過半数を占めていますが、「今後はどう過ごしたいと思えますか」では、男女・年齢を問わず「旅行」という回答が第一位を占めました。

観光

「温泉観光地のイメージに三分の二の人が肯定的」

「温泉観光地としてのイメージについてどう思うか」という質問の回答では、「大変誇りに思う」が二三・五割、「地域のPRになるのでよいと思う」が四十一・六割となつています。

「もっと全市的なイメージが必要」と答えた人が二三・四割でした。



コミュニティ

「近所づきあいはあいさつをする程度」

「近所づきあいはどの程度して
いますか」という質問では、「あい
さつをする程度」が約四十三割
「会えば世間話をする」が約三十
割また「ときどき家を行き来する」
と答えた人も約二十割いました。

「地域の人々のまとまり、評価は
半々」

地域の人々のまとまりについて
の質問では「まとまりがよいと感
じている人」が約五十一割、「よ
いと感じていない」人が約四十九
割でした。

また、地域の生活環境について
の質問では、「ゴミの始末や家の
まわりの掃除」「家のまわりの除
雪」などで「良い」「まあ良い」の
回答が六割を超え、最も評価が低
かったのは「路上駐車や自転車
のおき方」でした。



高齢化

「老後の備えに必要な『貯金』と
健康管理」

「老後の備えとして何が必要だ
と思いますか」という質問では、
「貯金」「食事を含めた健康管理」
という回答が過半数を占め、「趣
味・知識・教養の向上」がそれ
に続きました。

一方、「行政や地域社会に力を
入れて欲しいと思うものは何でし
ょうか」という質問では、「年金や
手当の充実」「医療費助成の拡大、
老人病院の充実」「高齢者の働け
る場づくり」という回答が上位を
占めていました。

福祉

「望まれる在宅高齢者福祉サービ
スは『家事』『移送』『給食』」

有料の在宅高齢者福祉サービス
についての、「ある程度の自己負
担をしても利用したいサービス項
目は何ですか」という質問では
「家事援助サービス」「移送サー
ビス」「給食サービス」が四割を占
め、「入浴サービス」「訪問サービ
ス」「介護サービス」も約三割と
いう結果になっていました。

環境衛生

「ゴミの分別は九十五割が実施」

生活の環境対策では、「普段の
生活の中で心掛けていることはな
んですか」という質問への回答で
はそれぞれ、「ゴミの分別」が約
九十五割、「新聞紙のリサイクル」
が約八十四割の人が心掛けてい
ると回答。「フロンガスを使わな
い」「エコ・マーク商品の使用」
を心掛けている人は、それぞれ四
割、二割にとどまっています。

文化・社会教育

「一番参加しているグループ活動
は『町内会活動』」

「学習」「趣味」「スポーツ」「町
内会」「奉仕」の五つのグルー
プ活動の中で、参加している人がも
っとも多かったのは「町内会活動」。
「時々参加」を含めると約六割の
人が参加・活動しています。もっ
とも参加している人が少なかった
のは「学習活動」で「時々参加」
を含めても約二十二割という結果
でした。

まちづくり

「まちづくりで力を入れたら良い
と思う事」

まちづくりを考える時、力を入
れたら良いと思うことは「道路舗
装や排水施設の整備」「下水道の
整備」「老人福祉の推進」という
回答が上位を占めました。

これからの登別市のまちづくりを考えた時、特にどのようなこと
に力を入れたらよいとお考えでしょうか。次のなかから5つ
まで選んでください。



登別市は、平成六年に同様な意
識調査の実施を予定しています。
今後市民の皆様のご協力をお
願いします。
なお、調査結果の詳しい内容につ
いては、市役所企画調整室 ☎
1122 へお問い合わせくださ
い。

市民レポート

地元発の

おいしさを求めて



市民リポーター・大屋二三枝

観光シーズンも本番を迎え、登別にもたくさんのお客が訪れています。全国的に有名な温泉に加え、テーマパークも人気を呼んでいますね。

さて、今回のリポーターは、登別で生まれた特産品とはどのようなものがあり、地元の人達にどのくらい親しまれているのか。そして登別を訪れた人達に、一体何を勧めたら良いのかを食べ物の面から取材してみました。

「登別の『特産品』は」

さっそく「代表的な特産品とは何か」を求めて、登別商工会議所を訪ね、小川専務理事からお話を伺いました。

「登別市には『特産品』という特定の商品が指定しておりませんが

のぼりべつ物産会名簿

会社名	品目
湯の華本舗	登別温泉湯の華
（有）貴泉堂	観光みやげ品
（有）とろろん企画	温泉オリジナル
（株）わかさ屋	菓子
（有）兵衛窯	窯業
（有）天明登別ファーム	しいたけ・なめこ
岩島水産	海産物
（有）いづまフーズ	海産物
（株）望月製麺所	めん類
道南平塚食品	納豆
（有）高橋商事	生鮮魚・塩干物
（株）ブラザファイブ	総合食品
わかさ屋菓子舗	菓子
（株）ゑびす屋	菓子
（有）阿波銘木	銘木及び工芸品
（有）御菓子司かわむら	菓子他海産物
新和デパート	菓子他生鮮食品
丸イさとう	海産珍味
（有）べアー観光園	観光土産
藤崎わさび	観光土産
（有）かめや	菓子
（有）北方水産	海産物

（平成5年4月1日現在）

商工会議所の「玄関に展示してある物産品を紹介しますね。食べ物ですと、たろこ、いくら外にもしいたけ、なめこ、ラーメン、納豆、わさび漬、それにミネラルウォーターですね。また、お菓子類は

種類も豊富で、海産物では前浜物のたろこは定評があります。市内ではかなりの数の生産者があります。すよ。特徴的なものでは、わさび漬ですね。わさび水を利用して、山あいのわさび田で栽培から手掛

けているものです。これらの地場産品を広く市民に愛用していただくため「のぼりべつ物産会」という組織があります。平成二年から活動しています。活動内容は、地元で行事での販売はもちろん、他市で行われる物産展への出展や販売などを行っています。特に一大事業として、昨年十月に初めて行われた産業フェアへの参加です。地元の工業製品も出展し、大盛況でした。今年も第二回めの開催を決定しています。」ということでした。



登別商工会議所小川専務理事

さて、市民の愛用度はどうでしょう。地元で生産され、おいしいとなるといつの間にか食卓の常連となっていくことが多いですね。また、知らず知らずのうちに親しんでいる方も、他市で生産されたものの方が、口にあっていると、場合もあります。私もそうですが、数多い食料品の中から、わざわざ「特産品」だから愛用するという人はあまりいませんね。

「特産品」の誕生を見学

私は興味があった先程の「わさび漬け」と「なめこ・しいたけ」園をのぞいて見ました。



山あい広がる わさび畑

まず、わさび園。まだ時期が早いうででしたが、緑あふれる山あい広がるわさび園には、わき水が穏やかに流れていました。このわさび漬けの特色の一つは、外ならぬこのわき水にあるのです。水温は一年を通して十度前後を保ち、わさび田の周囲は、百年以上経ったカツラやヤチタモ、イタヤカエデ、クルミなどの樹木で覆われており、川底には三十センチの深さで川砂を敷いています。わさびの栽培には、中性に近い水質と一日の日照時間が三時間以内という条件が必要で、自然が豊かと言われている北海道でもそれほど多く栽培されているわけではないそうです。

それがここ登別の「しいたけ」の自然だとピッタリなんです。登別の自然の豊かさの象徴ともいえるわさび漬けは、大正八年から三代続いている藤崎商店（藤崎信雄さん経営）の祖父寅太郎さんが緑豊かな自然環境と豊富なゆう水に目をつけ静岡県からわさびの株を取り寄せ、道内の沢わさびと交配栽培したのが始まりだそうです。

次に、「なめこ・しいたけ」を栽培している天明登別ファーム（工藤忠美さん経営）へ行って来ました。登別川沿いの山奥で、野鳥のさえずりが響きわたる林の中に、ハウスが何棟も並んでいます。そのハウスの中には、菌床がびっちり。（私はしいたけは木に生えるものだと思っていましたから妙な感じでした）



「私にも取らせて」としいたけ取りを体験した市民リポータの大屋さん

固めたもので新潟県から取り寄せているそうです。しいたけの菌床は、食パン一本位の大きさです。ニョキニョキ何本も出てくるしいたけの大きさをしながら、毎朝収穫しているそうです。ハウスの中はまるで焦げた食パンを並べたようです。



なめこ菌床が並ぶハウス

なめこは、円柱の菌床の上部にびっちり生えています。その菌床がハウスの中に並んでいて、一面なめこだらけで、なめこの壁ができています。毎朝ハサミでチョキチョキ切られ、新鮮ななめこが地元はもとより室蘭や札幌方面に出荷されているのです。

「けつこう身近に

あります」特産品

今回の取材で私は、「この街の特産品」はこれだ」と、一口に

特定できないんだと分かりました。裏を返して言うなら、地元で作られている物は思った以上にあり、自分たちが「特産品」としての意識もしていないからなのです。他の市町村の特産品は知っているけれど、自分の町の特産品は案外見落としがちかもしれません。おみやげ品としての特産品ばかりでなく、私たち市民が日常親しんでいるものの中にも特産品はたくさんあるんですね。同じ商品のもので「登別産」のもの、ちょっと見直してみませんか。



市役所ロビーにある物産品展示コーナー

登別の物産品のコーナーが、市役所ロビー、商工会議所玄関入り口にあります。のぞいて見ると意外な発見があるかも知れませんよ。私のように「はは、こんなものもあるんだ」なんてね。そして、登別産の物をもっと地元のアピールしても良いのではと感じました。



東奔

歩道は春の花がいっぱい

緑や花がいっぱいのまちづくりを市民参加のもと進めていこうと、四月下旬歩道の花壇に春の花パンジーが植えられました。カラブロックで整備された市役所通りの歩道には、八箇所の花壇が設けられており、中央栄町内会と中央町内会の皆さんや幌別小学校児童、市役所職員が植え込みをしました。また、マリンパークに通じるメ

メルヘンストリートのフラワーポットに植え込みをする登別東町第一町内会の皆さん



パンジーを植え込む幌別小学校の児童

ルヘンストリートのフラワーポットには、登別東町の第一町内会の皆さんが植え込みを行い、それぞれの花壇は各町内会などが、今後手入れなどの自主管理を行うことになっていきます。

春風にそよぐ花壇は、道行く市民や観光客の目を楽しませてくれます。

元気いっぱい こいのぼり マラソン

第十八回こいのぼりマラソン大会が、五月五日市営陸上競技場を発着点として開かれました。

青空の下、メインポールにこいのぼりが泳ぐ会場から、三、五、七時の三コースに逾六百人が参

加しさわやかな汗を流しました。「こどもの日」恒例となっているこの大会は、登別市子ども会育成連絡協議会の主催で、子どもからお年寄りまで楽しく健康づくりを毎年続けています。

完走者には、今年のエトのがデザインされている子ども会手作りの木製記念プレートが送られました。



市営陸上競技場をスタートする参加者

自然に優しい 巣箱かけ

自然と動物を愛する心と奉仕の精神を培ってもらおうと、愛鳥週間を前に四月下旬登別温泉中学校の全校生徒(二十六人)が、地獄谷周辺の清掃と巣箱かけを行いました。巣箱は自然公園美化財団からの提供で、一年間は雨風に耐え最後は土に還るといふ自然に優し

紙製の巣箱をしっかりと木に結ぶ男子生徒



紙製のものです。地獄谷周辺は、国の天然記念物指定の「登別原生林」でシジュウカラなどの野鳥たちが巣作りを行います。男子生徒は、鳥たちの今年の「マイホーム」をしっかりと木に結び付け、女子生徒は遊歩道のごみ拾いをていねいに行いました。



地獄谷の遊歩道を清掃する女子生徒

温かいハートで おもてなし



観光客を温かくもてなす観光ボランティアガイドの皆さん

登別市観光ボランティアガイドがスタートしました。「観光客を温かくもてなす運動を」と、登別市観光ホスピタリティ推進協議会が平成元年度から市民を対象にガイド養成講座を開講し、その卒業生の実践活動として行っている



ものです。おそろのジャンパーを着て、登別温泉の三大史跡の解説や写真撮影も引き受けるなど大活躍。今年は四期生十五人が加わり総勢四十五名がガイド役を務めます。同ガイドは、毎週木、土、日曜日の午前十時から午後二時までの間で、メンバー交代で十月末まで続けます。

きれいな まちが好き

五月晴れの広がった十六日、市民総参加の「春のクリーン作戦」が行われました。連休前に行った登別温泉地区を除く市内ほぼ全域で町内会が主体。午前八時から冬の間道路の隅にたまった泥や砂をきれいに取り除きました。



春のクリーン作戦に汗を流す中央町内会の皆さん

教育一筋に四十余年

勲五等双光旭日章

中村肆基さん(七十七歳)

柏木町在住



昭和十年、鶴川町萌生尋常高等小学校を振り出しに昭和五十一年四月幌別小学校校長を勇退するまで四十余年間、教育一筋に情熱をそそぎました。この間、教育・文化団体の公職も務め、特に陸上競技では普及と発展に寄与し「陸上の中村」と呼ばれています。現在は体調を崩し自宅で療養中です。

二十七年間親身に相談者指導

藍綬褒章

小林クニさん(七十六歳)

登別温泉町在住



昭和三十七年から平成元年まで民生児童委員を務められました。「娘時代から温泉街の小間使いだったんです。みんなと仲良く暮らしてこれだからね。こんな立派な章をいただけるなんて感謝していません」と喜びを語り、「温泉は働く場所があったからね」と相談者を指導したところを語っておりました。

青少年更正に尽力

藍綬褒章

秋吉正男さん(七十四歳)

登別温泉町在住



昭和四十一年から保護司として務め、現在も現役で青少年の更生に尽力しています。「保護司は、犯罪の種類がよってそれぞれに適切な対策をしなければなりませんので大変です。しかし二十七年間務めてこれたのも皆さんに支えられたおかげです」としみじみと喜びを語っておりました。

今昔写真館

なつかしいあの頃



大正末期のカルルス温泉

カルルス温泉は、明治19年(1886)屯田兵用地にと札内原野を調査した道庁技師を道案内した日野愛喜氏が、偶然発見したものです。

昭和32年全国で12番目に、俗化されない健全な温泉だけが受けられる、厚生省の国民保養温泉地に指定されました。

現在



- ▽利用施設
グランドゴルフ(九ホール)
バターゴルフ(九ホール)
ゲートボール(二面)
多目的コート(テニスコート四面に利用できます)
- ▽利用期間 九月三十日(木)まで
- ▽利用時間 午前十時から午後五時まで
- ▽利用方法 室蘭リゾート開発㈱に直接または電話(☎435600)で申し込み、利用当日窓口で許可証をもらってください
- ※今年度は暫定的に無料開放。用具はグランドゴルフ、バターゴルフについては室蘭リゾート開発㈱で無料貸し出しします。それ以外の用具は各自持参してください。
- ▽問い合わせ 室蘭市街路公園課(☎221111内線2602)

- ▽日時 七月三日(土)正午から午後九時三十分まで、四日(日)午前九時から午後三時まで
- ▽場所 有珠海水浴場(中央駐車場前浜)
- ▽内容 三日は、正午から海産物の即売、午後二時からマリッジェット試乗会、子どもの遊び広場、ステージショー、同六時から前夜祭
- 四日は、午前九時から海産物即売会をはじめ、クルーザーの体験試乗、大漁旗レース、子どもの遊び広場、カラオケ大会、ステージショーなど
- ▽問い合わせ 伊達市商工観光課(☎014223331)

室蘭市の山麓で

心地よい汗を流そう



室蘭市

伊達市



新鮮な海の幸いっぱい

「有珠磯まつり」へ

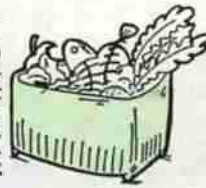
となりまち
ほつとインズ

生ゴミを堆肥化して 有効な利用をしよう

平成三年度に行った調査で、家庭から出される燃やせるごみのうち、四十七・八割は生ごみです。

また、一世帯から出される生ごみの量は一月平均約二十一年間で、一年間では約二百五十四リットルにもなります。

リサイクルコーナー



この生ごみは、堆肥化すると良質の堆肥となり、家庭菜園、植木、花壇に利用され好評です。

堆肥化の方法として専用の容器が市販されています。

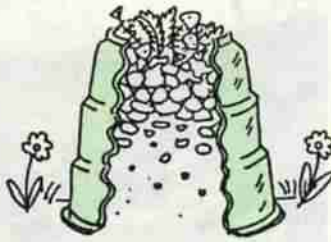
この容器は、ポリエチレン製で底のないバケツに似ています。これを土の上に置き、生ごみを入れていくと、地中のバクテリアの働きで生ごみが発酵、分解され、容量が減って堆肥ができあがります。



庭や畑のあるご家庭には最適です。

市は、ごみの減量と生ごみの有効利用のため、堆肥化容器の購入者に一個二千円を補助しています。

希望の方は、市民課、各支所、環境衛生課(幸町)へ印鑑を持参してお申し込みください。



▽問い合わせ 環境衛生課

(☎) 2958

ただで欲しい人手をあげて 催眠商法

催眠商法とは集会所などで商品説明会を開き商品の特徴、使用方法などを説明した後、商品の購入を募る悪質な商法です。

消費者の競争意識をあおって高額な商品を買わせようとする。安売りや講習会を名目に人を集め、日用品や食料品を無料か無料同然で配り、羽布団や磁器マツ

消費者こーな

トレス(市価より高額)などを消費者に買わせようとしています。

販売業者は、閉め切った会場で熱狂的な雰囲気を作り上げ「もらわねば損、買わねば損」というような、一種の催眠状態をつくりだして消費者の冷静な判断を失わせます。

この商法は、消費者が雰囲気酔った状態で商品の購入を決

定することとなるため、後で品質、価格等について販売業者と問題が生じることとなります。また、臨時に設置された会場での販売のため、販売業者の所在が不明で、返品、アフターサービスについての問題も生じます。



催眠商法は、

- ・1日だけ会場を借りて販売を行う場合
- ・長期にわたっての販売を行う場合

・ピラやチラシ、拡声器などで販売意図を告げず店舗と見なされる場所に呼び出した場合は、販売の取引を規制する「訪問販売等に関する法律」の適用がありますので、消費者協会にご相談ください。

▽問い合わせ 登別消費者協会 (☎) 8307



石炭列車が走っていたランボック海岸（現在の富浦海岸）

郷土史点描

登別郷土文化研究会 宮武紳一

37

長屋が走る「陸蒸気」

おかじょうき

今から百余年前の明治二十五年（二八九二）、北海道炭鉱鉄道（室蘭線）の停車場が市内で初めて登別・幌別に開設された。

驚別は明治三十四年、富浦駅は昭和二十八年で登別・幌別停車場は、道内・国内でも開設の古い駅である。例えば、東海道線の全線開通は明治二十二年、東北本線の上野、青森間は明治二十四年、函館本線は明治三十八年（一九〇五）の開通である。

北海道に鉄道が早く開設された理由は、アメリカ人地質学者ライマンの調査により「北海道は日本における石炭の宝庫」と、おり紙をつけ、幌内炭山の石炭を「本州へ一時も早く運び出す」ということからであった。

当時の日本は、欧米諸国に比べ三等国並の弱小国。近代国家を目指す明治政府の施策は「殖民興業富国強兵」で近代工業の発展に北

海道の石炭は欠くことのできない重要資源ということから、室蘭港から京浜への移出をライマンやケブロンらが早くから提唱していた。小樽港に遅れをとった室蘭港であるが、太平洋沿岸への物資輸送、道央・道東の開拓、軍事的にロシアとの国防上の問題など、国の施策に合う立場から実現したのが北海道炭鉱鉄道の開設であった。

この鉄道開設の舞台裏に、北海道開拓の問題点もあるので少し触れると、創立者代表は薩摩藩士の堀基で土佐の坂本龍馬と行動を共にした人物。薩摩の黒田清隆のもとで開拓使大書記官を務め、明治二十一年（一八八八）黒田清隆が内閣総理大臣になると黒田首相に取り入れ、北海道開拓使時代からの公営事業、鉄道と炭鉱払い下げの約束を取り付け新しく北海道炭鉱鉄道会社の設立を計画した。

そのため、前太政大臣三条実美

らを通して宮内庁に入り込み、皇族・華族らの名前を利用し、資本金六百五十万円の前記会社を設立したのであるが、北海道開拓に与えた薩摩閥の影響は大きい。

政府の問題は後日にして、北海道炭鉱鉄道が敷設され室蘭（輪西）幌別・登別・白老・苫小牧などに停車場が設置された。停車場などで、駅長ではなく場長、車掌は車長であった。

幌別停車場は幌別町五丁目二十番地付近、登別停車場は明治二十九年陸地測量部図をみると、登別川の西南側にあり、両停車場とも現在と異なった場所にある。停車場の舎屋も小さく質素な建物で乗車用のプラットフォームはないので荷物も人も低い線路わきから乗車し、乗客・荷物のある限り旗の合図で列車は停車している。炭鉱鉄道の石炭運搬車なので、北海道最初の機関車義経・弁慶・しづか号

や、アメリカのピッツバークポーター社製（百八十から二百馬力、十五・八トン）の機関車より、一回り大きい九〇四〇型などのアメリカ輸入車が力強く動いていた。

海を走る蒸気船に比べ汽車は陸を走るの「陸蒸気」と言われ、また人の乗る客車は、立派な長屋に見え「それ、長屋が走る」などと大騒ぎ。「子供はもちろん大人まで仕事を放り出し、物珍しげに鉄道沿線に集まる者多く、子供らは汽車通過の前後、軌道上において遊戯をなし、軌道に伏せて車両の響きに聞き入り、中にはトンネル内を走り抜け煙りの臭いを嗅ぐ」など危険な行為が多かったため、本庁から注意の布達が発せられたが、当時としては本当に驚異的であった。

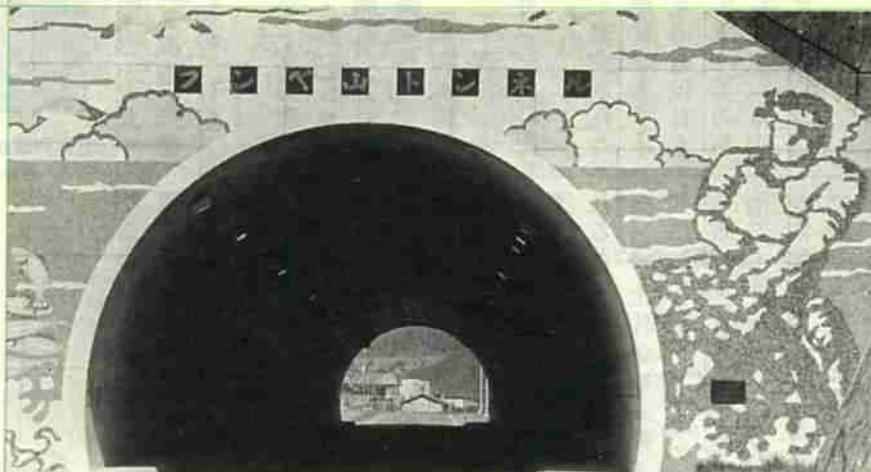
乗車の賃金は、登別から室蘭まで上等は四十四銭・中等二十一銭・下等十八銭などと、開設当時は三段階に分かれていた。登別から幌別まで下等は七銭である。

幌別 輪西うち過ぎて
はや室蘭に 着きにけり
青森までは 海一つ
海胆は この地の名産ぞ

（鉄道唱歌二十番）
室蘭発車すりやトンネル越えて
輪西 驚別 幌別と

一等名所の温泉場サノサなどと、鉄道に寄せる歌もあるが発足当時、東京米価十銭六十七銭に比べ安い運賃ではなかった。

まちかどぶらり



モザイク壁画

登別港町 フンベ山トンネル

登別漁港関連道のトンネル入り口に施されているモザイク壁画。海側の入り口は網を引く漁民の姿と魚、山側は太陽とカモメが描かれています。

6月9日は国民の休日となりますので市役所・各支所は休みとなります。また、ごみの収集、し尿のくみ取りも行いませんのでご協力願います。

施設の開館日(○)、閉館日(×)は次のとおりです。

施設	6/9	6/10
市民会館	○	○
各公民館	○	×
総合体育館・市民プール	○	×
各青少年会館・郷土資料館	○	×
市民研修センター	○	×
老人福祉センター	○	×
鉄南ふれあいセンター	○	×
婦人センター	×	○
図書館・各児童館	×	○
労働福祉センター	○	○

花いっぱい運動 花を苗をプレゼント

登別市民憲章推進協議会は、まちを花できれいにしようとしている町内会や各種団体に花苗を配布(無料)します。

苗は、1団体に120株、25団体に配布を予定しています。

▷日時 6月25日(金) 午前10時から正午まで(雨天決行)

▷場所 市民会館裏駐車場

▷申し込み方法 6月15日(火)までに市役所企画調整室備え付けの用紙に記入して申し込みください(定数になりましたら締め切ります)

▷問い合わせ 企画調整室
(☎1122)

ひとの動き

■人口 56,942人
(前月比 -179)

■世帯 20,564世帯
(前月比 + 64)

平成5年4月末日現在

発行

登別市役所

総務部総務課広聴広報係

☎0143⑧1130

〒059

北海道登別市中央町6-11

おわびと訂正

広報5月15日号でお知らせしました乳幼児健康診査の対象児は、鶯別地区平成4年2月28日から平成4年3月17日までの出生児、幌別・登別・登別温泉地区は平成4年3月1日から平成4年3月25日までの出生児となります。